

# プロジェクトチーム準備会での議論の概要について

## PT①\_原料づくり



原料の確保

- ・楮の生産者の高齢化が進んでいるため、現在の楮畑のリスト化、地図等での位置の把握など、新たな生産者等へ繋ぐための基礎調査等が必要。
- ・県内産原料の必要量の把握が必要。

→県内の楮畑の現状（供給量、需要量）の把握が必要

- ・へぐりの機械化の検討など、作業の効率化はこれから楮を作っていく生産者の課題であるため、対策等を考えていくべき。

→楮白皮の生産工程の効率化の検討が必要

## PT②\_担い手づくり



後継者育成 用具確保

### ○手すき和紙職人の後継者育成

- ・受け入れ体制が課題（職人個人での受け入れによる負担）

→複数人、組織単位での後継者の受け入れ体制の検討・構築が必要

### ○用具の確保

- ・県内すべての紙すき職人の用具のメンテナンス状況、用具職人の受注状況を把握できていない。

→県内紙すき職人の用具のメンテナンス状況についての状況把握が必要

## PT③\_マーケットづくり

商品開発  
販売促進

### ○新商品開発

- ・土佐和紙の様々な提案ができれば、販売拡大に繋がる可能性があるのでは。

→商品開発の仕組み作りの創出等が必要

### ○販売促進、販路開拓

- ・高知家のミニ商談会（産業振興C）などへの出展検討など
- ・海外で現地の反応を見てはどうか。（販路拡大）

→専門家派遣（産業振興C）、産振アドバイザー（県）などの既存の事業等を活用した支援が必要（新商品開発等も含む）

### ○土佐和紙のブランド力強化

- ・県外などに販売していく際に土佐和紙といえばこれというイメージがあると良い。

→土佐和紙のブランド力強化が必要

## PT④\_魅力づくり

文化の発信と  
無形文化遺産登録

### ○土佐和紙文化の発信

- ・小中学校でのちぎり絵教室など、紙すき体験以外の土佐和紙に触れる機会の検討をしてはどうか。

- ・吉井源太翁を用いたPRも検討してはどうか。

→継続して学校等での和紙に触れる機会等の創出が必要

### ○ユネスコ登録

- ・紙選定が一番の課題であり、土佐和紙の技術保存を目的に手段の再考を検討してはどうか。

- ・登録を目指すにあたっては、他産地（越前和紙等）の動きにも注視するべき。

→継続して土佐和紙の技術保存方法の検討・構築が必要